

平成 27 年 3 月に北陸新幹線開業と国道 8 号線バイパスが開通し、早 2 年が経過いたしました。黒部市の注目度も上がり、人の流れが変わってきたと実感しております。

そんな中で現在、平成 30 年度から始まる第 2 次総合振興計画の策定審議がなされております。

これから、私たちの生活はどうなっていくのか、明るい黒部市の未来を創る上でも重要な時期ではないかと考えます。

そういったことを踏まえ、通告によりまして新風の会を代表いたしまして 5 項目について質問させていただきます。

**先ずは、1 項目め、人口問題についてです。**

日本の人口減少は黒部市においても例外ではなく、減少してきています。それを少しでも小さくするために黒部市人口ビジョンや総合戦略を策定しています。

いかにして出生率を増やし、生涯にわたり黒部に住んでいただくか。そして市外の方に黒部に移住定住してもらうかであり、減少数より増加数を増やせば良いわけです。そういう事で人口移動数を調べてみると、出入りとも多い順に富山市、魚津市、入善町となっており、ほとんどは、相手の自治体から黒部市に入ってくる人が多いわけですが、富山市と滑川市などいくつかの自治体が黒部市から出て行く人の方が多いい事が分かります。

**そこで、3 点質問いたします。**

**1 点目は、**

この富山市と滑川市などいくつかの自治体が黒部市に移住する人より、移住される人数が多いのはどんなことが考えられるのか。

**2 点目は、**

今後、PR 方法や他自治体に負けない制度づくりも含め、施策検討する必要があるのではと考えますがどうか。

**3 点目は、**

黒部市内においても人口が増加している地域、減少している地域があります。増加と減少、急激に人口の変化があると、どちらも問題が出てきますし、地域の未来が見えなくなってきました。黒部市公共施設の再編に関する基本計画が示された今、自分たちが住んでいる地域がどうなっていくのかをそこに住む人たちが自ら考え、次世代に繋いでいくことが重要と考えます。その為には、10 年後、20 年後がどうなっていくのかを予測して、行動することだと思います。

**そこで質問です。**

黒部市内の地域別の人口ビジョンを示し、行政だけで考えるのではなく、市民全体で自分たちのまちを考える事が重要だと思いますが、どうか伺います。

**次に2項目め、商工業の振興と就労についてです。**

冒頭でも述べたとおり、黒部市の注目度が上がり、新規オープンのお店などが目立ち、活気づいてきたように感じます。しかしながら、その裏では、廃業される方も多くおられます。一つの指数として、北陸新幹線開業の平成27年3月から今までの黒部商工会議所の新規会員は80件、一方、退会会員が80件となっています。廃業された原因の多くは、後継者がいないことと設備投資資金不足だそうです。

**そこで、1点目の質問です。**

新規事業支援も重要であるとした上で、既存の商店が廃業しないで頑張ろうと思えるような支援を継続的に行うことが出来ないかどうか、伺います。

**次の質問です。**

厚生労働省が5月30日に4月の有効求人倍率を1.48倍と発表しました。バブル経済時の最高水準の1.46倍を超え、高度成長期直後の昭和49年2月に記録した1.53倍以来、43年2カ月ぶりの高水準となりました。黒部市においては、それ以上であると伺っています。

嬉しい事ですが逆に、働いてくれる人がいない、労働力不足に陥っているのが黒部市の現状ではないでしょうか。

同じくして、厚生労働省は、民間の障害者雇用義務2.0から2.3%とし、対象企業も拡大する事を決めたと発表しました。

先日、私も生活環境委員会の行政視察で神戸市にあるYKK六甲株式会社にお邪魔して障害者就労の現場を視察してきたばかりでしたので、強い関心を抱いたところです。

現在、黒部市においても労働力不足の一方で、障がい者、高齢者など働きたくても就労先が見つからないといった就職困難者がおられるもの現状です。そういった方々とのマッチング作業などを進めれば労働力不足の解消に繋がると考えます。

**そこで2点目の質問です。**

現在の市内有効求人倍率と障がい者・高齢者の市内雇用状況を伺います。

**3点目は、**

市内でも就職困難者も含む全ての方の職業訓練や就労に結びつけるために行う場所や仕組みづくりが必要だと考えますが、どうか伺います。

**次に3項目め**

**地域医療についてです。**

市民は最後まで安心して医療を受けることが出来るのか。

市民の皆さんから良く聴くのは、「市民病院があるから大丈夫」との声です。本当にそうなのでしょうか。

黒部市民病院は新川医療圏の基幹病院として、主に高度急性期医療や急性期医療を行う、すなわち「急性疾患または重症患者の治療を24時間体制で行なう事」を担う病院となっています。

ですので、病状が安定してくると他の病院もしくは在宅での療養になります。そこで重要なのは、地域医療を支える医療機関です。

その医療機関の数が減ってきています。

黒部市が発行している「くらしのガイド」を見ると黒部市が誕生した平成18年度発行の冊子には31の医療機関が記載されておりますが、北陸新幹線開業の平成27年度発行のものには25の医療機関になり、さらに現在は2つ減って23の医療機関となっています。つまり平成18年から8つの医療機関が減っているのです。

また、平成30年度に改定される医療計画、介護保険事業計画では、医療と介護の連携強化が進められる事となります。

そこで、質問です。

1点目は、

在宅医療に関わる医師や看護師の現状はどうか伺います。

2点目は、

医療と介護の連携はどうか伺います。

3点目は、

在宅医療について市民に理解は得られているのか、また理解してもらうためにしていることは何か伺います。

4点目は、

退院から在宅に移行するときには病院職員とケアマネージャとの情報の共有が不可欠だと考えますが現状はどうか伺います。

5点目は、

かかりつけ医（医療機関）と市民病院間の紹介・逆紹介件数の増加で連携強化を図る必要があると考えますが、現状はどうか伺います。

6点目は、

今年3月に出された第2次総合振興計画の中間報告の中にも「地域医療の充実」とあります。市として地域医療の現状と今後の方向性をどういう風に見ているのか、伺います。

次に4項目め

福祉総合窓口の設置についてです。

政府が進める一億総活躍社会。その中に「地域共生社会の実現」があります。

「地域共生社会」とは、「子ども・高齢者・障害者など全ての人が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる社会」のことだそうです。

現在は、高齢者は介護保険法、障害者は障害者総合支援法、子どもは児童福祉法の制度の中で行政サービスが進められており、高齢者や障害者など相談する方がどんな人なのかで相談場所が違います。

しかし、障害を持つ高齢者、子育てしながら介護している方など相談が複数にまたがる方が存在しているのが現状です。

そこで、厚生労働省はそんな方々が包括して相談ができる仕組みづくりに着手し、今年度は全国で100か所、2020年度までには全国の市町村によろず相談窓口となる支援拠点を整備したいとの事です。

そこで質問です。

1点目は、

窓口は、対応する方の質が重要であるとの認識から、今後の窓口開設を目指して、今から職員の研修にチカラを入れてはどうかと思いますが、どうか伺います。

2点目は、

相談が多様化し、かつ、家庭訪問の取組業務は国・県から市に移行してきており、ますます人員の確保が必要だと考えます。今後、担当職員の増員なども検討していかないといけないのではと思いますが、どうか伺います。

次に5項目め、

健幸都市宣言についてです。

今年2月、「住民が健やかで幸せに暮らせる地域社会を目指すまち」を目指し、全国80自治体が参加して健康の健に幸せと書いた「日本健幸都市連合」の発足式がおこなわれました。

本格的な超高齢社会を見据えて、今後、課題解決に向けて、各自治体の担当者が集まって、ともに学んだりノウハウを交換したりする勉強会などを実施していくというものです。

これから迎える超高齢化社会に対応するためには、市民の健康に対する意識向上と共に職員の知識向上が重要だと考えます。

そこで、1点質問です。

本市においても、「住民が健やかで幸せに暮らせる地域社会を目指すまち」を目指し「日本健幸都市連合」に加入し、健幸都市宣言を検討されてはどうかと思いますが、伺います。

以上です。よろしく申し上げます。

今回、人口問題、商工業の振興と就労について、医療について、福祉総合窓

口、健幸都市宣言についての 5 項目を質問させていただきました。

黒部市に住む私たち全ての市民が穏やかに健やかに、そして安全で安心して生活ができて幸せを実感できる地域になることを切に願うところです。

黒部市の素晴らしい未来を想像しながら、「新風の会」を代表しての質問を終わります。

日本健幸都市連合の代表幹事は西川 荒川区長

荒川区は、小説、高熱隧道を書いた吉村昭氏の縁で先日、荒川区議会自民党議員団 表敬訪問